

平成 29 年度 学校評価報告書 (目標設定 ・ 実施結果)

視点	4 年間の目標 (平成 29 年度策定)	1 年間の目標	取 組 の 内 容		校 内 評 価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価 (3月20日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒自らが課題を発見、探求して課題を解決する意欲と力を高められるよう教育課程の再編に取り組む。 ②生徒の主体的な学びを引き出し、生徒一人ひとりに応じた教科指導體制と学習評価体制を確立し、不断の授業改善に取り組む。	①生徒の課題解決力や学ぶ意欲を育むため、総合的学習の時間の再編を含めたカリキュラム・マネジメントを押し進める。 ②インクルーシブ教育推進実践校として、支援教育に対する理解を深め、生徒個々のニーズを共有し丁寧な学習支援と T T 体制など柔軟な教科指導體制を実践する。	①選択科目や学校設定科目を精選するとともに朝読書を含めた総合的学習の時間のUD化を進める。 ②生徒の主体的な学びと支援教育の推進及び T T 体制の構築を授業研究のテーマとし、組織的な授業改善を図る。	①教育課程の改訂に向けた具体的な検討と改訂を行うことができたか。 ②生徒個々のニーズに応え、主体的な学びを引き出す授業や指導方法について、T T 授業の検証も含めた研究授業や研究協議を行うことができたか。	①教育課程検討会での検証、議論、検討を重ね課題を明らかにし、進路希望に柔軟に対応し探究的意欲を高める弾力的運用が可能な具体的改訂作業を進めた。 ②インクルーシブ教育の導入に伴い全生徒へ「合理的配慮」が行き届く教育実践に向けた授業改善に取り組んだ。併せて新しい科目の設置を行うこととした。	①引続き育成すべき生徒の資質・能力とインクルーシブ教育及び大学入試改革に柔軟に対応できる教育課程の改訂に取り組む。 ②主体的な学びを引出し、わかる授業に繋がるきめ細かな学習支援など、教科担当者間の連携や研究授業及び協議を進めるとともに新しく設けたインクルーシブ科目の指導内容の精査と校外への情報発信を図る。	①年間スパンで前期後期に分けて、カリキュラムの課題を整理している点は評価できる。今後も教育を取り巻く情勢分析に努めてほしい。 ②小中学校ではアクティブラーニングが定着してきている。高校においても主体的な学習の推進に努めていた。このことがインクルーシブ教育の推進を後押しすることになるのではないかと。	①具体的な改訂作業に向け議論、準備を進めることができた。引き続き開設科目の決定及び作業スケジュールの確定などの課題に取り組む。 ②わかる授業づくりに向け、「見通しの示された授業」や ICT 機器の活用など授業改善への取り組みが進んだ。今後も主体的・対話的で深い学びに繋がる改善を進める。	①定期的な検討会や教科会をより有機的に機能させ教職員の共通理解のもと確定作業を進める。 ②教材研究や教員が生徒に向き合う時間の確保など、教育環境(働き方改革)の整備へも注力したい。
2 生徒指導・支援	①生徒数の減少の中で部活動の活性化を推進し、協調性と責任感の涵養を図る。 ②学校行事や生徒会活動の精選と活性化を進め、生徒とともにユニバーサルデザイン化(以下UD化)を推進する。 ③生活指導と生徒支援の一体化を推進し教育相談体制の拡充と外部連携を進める。	①部活動の環境整備と安全面に配慮し、部活動における生徒の達成感や充実感を育み、部活動の活性化を押し進める。 ②合理的配慮を重視しながら、生徒と共に学校行事や教育活動全般を見直すなどUD化を進めるとともに生徒指導・支援のあり方について、生徒の特性を踏まえ画一的指導に陥らない体制作りを進める。	①部活動の活性化のため加入率の向上(70%超)に努めるとともに、達成感や充実感の育成に繋がる活動環境の整備と支援体制を更に整える。 ②合理的配慮に基づいた生徒支援の視点を積極的に取り入れ、教育活動全般のUD化と個々の生徒の特性や状況に応じた柔軟な生徒指導、生徒支援について検討する。	①安全な活動環境の確保と各部及び生徒一人ひとりが充実感や活動の成果を実感できる活動ができたか。部活動加入率アップの方策を立てられたか。 ②教育活動のUD化推進にあたり、生徒の視点も取り入れた活動の計画や実践ができたか。また、生徒指導と生徒支援の融合を進めた柔軟な体制づくりができたか。	①部活動加入率は72%と目標を達成した。各部ともそれぞれの目標達成に向けてよく取組み、自己肯定感の醸成や他者との良好な関係性の構築など良い学びの場となった。 ②多様性を受入れ自らを成長させる「命の授業」講演会や手話講習等を実施し人権意識を高めた。画一的な指導に陥らず個に応じた指導と支援の一体化に向けたカウンセリング、ケース会議を行い体制づくりを進めた。	①安全な活動環境の提供と達成感や充実感の育成に繋がる継続的な支援体制の整備に努め、更に自主的で主体性のある部活動へと導き、社会人としての資質と他者理解を深める取り組みを進める。 ②豊かな人間性や社会性を培うことに資する有効な行事(研修、講演会、ボランティア等)を企画するとともに、関係グループ間の連携強化や教職員個々のカウンセリングマインドや指導力の向上を図る。	①部活動と学業の両立については、教職員の働き方改革も絡んでくる。ただ一律にガイドラインに従えるものではなく、柔軟な対応をお願いしたい。 ②本校志望者の志望理由は、穏やかで落ち着いた学習環境に惹かれてというものである。そのような校風を守ってほしい。 ・この数年で自転車通学マナーは向上してきていると評価している。教員が道路に立って指導している姿にも頭が下がる。	①生徒の部活動への真摯な取組みと顧問の適切な指導が行われた。AED講習会の継続やケガの未然防止及び活動日の設定など課題への共通理解を図る必要がある。 ②合理的配慮に基づいた支援体制の整備が進んだ。校内での情報共有の在り方や実践をどう評価し改善に繋げるかが課題である。より深い生徒理解の方向で進めていきたい。	①部活動加入率の維持、増加だけでなく、途中退部に係る分析や対応を図り、学業とのより良い両立を目指した支援について検討する。 ②グループ間や支援会議との連携及びそこに携わるスクールカウンセラーや教育相談コーディネーターを含む「チーム力」の向上を図り、きめ細やかな生徒支援を進める。
3 進路指導・支援	①生徒自身が、体験し考えるキャリア教育計画を計画し、その実践を進める。 ②インクルーシブ教育実践推進校として、すべての生徒一人ひとりの社会接続が確実に実現されるよう、丁寧な進路支援を進める。	①外部機関と連携した進路学習を企画し、模擬試験の導入と共に、主体的・自律的な学びや、英語力の向上を支援する。 ②生徒一人ひとりの進路選択能力を高めるため、インターシップや医療・看護体験、保育実習の拡充に努める。	①生徒の希望する進路や社会接続を保障するため、効果的な模擬試験の導入や英語力の向上に取り組むとともにインターシップ先の開拓を更に進める。 ②進路ガイダンスや進路相談を活用し、保護者と連携しながら生徒の進路に対する意識を高める。	①有効で計画的なキャリア教育の実践と各種試験の活用及び新たな連携先の開拓ができたか。 ②生徒の進路に対する関心と意識を高めることができたか。また、そのための支援を行えたか。	①インクルーシブ教育連携枠対象生徒の社会接続を見据え、100社を超える企業訪問に取り組むと共に校外模試及び英検指導の結果を踏まえた進路指導を行った。 ②「総合的学習の時間」を活用した進路学習やインターシップ及び大学見学会の実施など、学年毎に計画的なプログラムを実施した。	①生徒の進路選択の幅を広げるため、より主体的・自律的な学びへの誘導と啓発及びインターシップ先の更なる拡充が求められている。 ②個々の生徒の特性やニーズに応えるため、意識啓発や的確な情報提供のもと、生徒自らのより主体的な進路計画の実践に繋がる支援が必要である。	①インクルーシブ教育推進校となっても大学進学率の向上など、学力向上の結果も現れている。進路指導の改善が進んでいると感じている。 ②インクルーシブ教育の推進の中で、障害がある無しに関わらず、高卒+開かれた進路選択という新しい進路指導の道筋を開拓してほしい。	①生徒自身の学びや体験を通して、進路選択に活かす機会づくりと指導を行うことができた。中長期的な指導計画と生徒の成長やニーズの変化に対応できる柔軟な指導体制づくりが課題である。 ②生徒対象の講演会や体験授業等のほか、保護者向け進路説明会や懇談会等を計画的に実施できた。夏休み中の進路指導を含めた継続的な指導を行い関心と意欲を高めていく。	①進路指導・支援に係る教職員の研修機会及び適正配置の検討改善を図る。 ②生徒一人ひとりの進路実現に向けて、学習指導と進路指導の両輪の連携と強化を図り、安易な推薦入試に向かわない指導も併せて行う。

